書評

月刊むし・昆虫図説シリーズ９
日本のセンチコガネとその仲間
塚本珪一・稲垣政志・河原正和・森正人
むし社2017年1月20日発行
113pp.

またまた面白い図説が出た．本図説では，日本のセンチコガネ科，ムネアカセンチコガネ科，アカマダラセンチコガネ科を扱っている．同じ著者らによって 2014 年に出版された『日本のオオセンチコガネ』の続編ともいえるもので，その「残り」で，「センチコガネ」と名の付く種をまとめた本といえる．

本書は図版と解説の大きくみて二つの構成になっている．図版は標本写真と生態写真に分かれている．標本写真の美しさは言うにおよばず，見ているだけで楽しい．センチコガネに関しては，個体群が地域別に並べられ，おおよその地域的な傾向が見て取れる．糞虫屋にとっては，この地域のものを集めてみたい，この色が欲しいなどと，胸躍る内容であろう．森がコラムに書いているが，脚を縮めたオサムシ的な展足方法も，センチコガネの背面の変異だけをじっくりと観察するのを手伝っている．

ムネアカセンチコガネ科とアカマダラセンチコガネ科の種は，一昔前までは，確実な採集法がなく，どれも珍種であったが，ここ 10 数年の衝突板罠（FIT）の普及によって，格段に集めやすくなった．本書に図示されているさまざまな変異を含む標本も，FIT あっての成果であろう．これらも地域的な変異や個体変異がとても大きいことが，図版からよくわかって面白い．

いずれの図版にも分布図（検視標本の採集地域）が示されていて，この点はとても親切である．標本写真の最後には海外の「センチコガネ類」も図示されており，眼福である．「形はだいたい似ているが，よく見ると多様」というのは収集家の心をくすぐる．なお，センチコガネ科，アカマダラセンチコガネ科，ムネアカセンチコガネ科の順で図示されており，これは解説とは異なる．センチコガネ科とムネアカセンチコガネ科は一見よく似ているが，他人の空似であり，最新の系統学的研究では，両者はかなり遠縁である．

それから生態写真へと続き，食性や生息環境を示す写真がたくさん図示されている．驚くべきは菌を運ぶアカマダラセンチコガネやムネアカセンチコガネの写真である．AM 菌という菌の塊をこれらのコガネムシが運んでいるのである．

それから解説に入る．まず，分類順に示された各種の詳しい解説がとても面白い．分布や変異，生態，食性など，さまざまな知見が余すことなく語られている．各所にちりばめられたコラムもたいへん面白い（少し多すぎる気がするが）．

次に何人かの糞虫屋の解説，採集法，標本作製法，撮影法などの詳しい説明がある．とにかく盛りだくさんな内容であり，単なる「図説」という書名がもったいないほどである．2009 年に同一の著者らによって『ふんコロ昆虫記 ― 食糞性コガネムシを探そう』（トンボ出版）という本が出て，そのあまりの内容の濃さに感動したものであるが，本書はその精神を引きついで，読者をびっくりさせるような充実ぶりである．

最後に，一つだけ気になる点があった．アカマダラセンチコガネやムネアカセンチコガネが菌を運ぶ生態写真に関して，日暮卓志と棚橋薫彦によるこの大発見がまだ論文化されていないことである．学会や研究会の講演要旨集に内容が出ているとはいえ，あくまで公式には未発表段階であり，論文出版前に第三者がそれを引用して公表，流布するべきではなかった．（十年以上の単位で）長年放置された研究内容について学会の要旨集が引用されることはあるが，進行中の研究の講演要旨は引用しないのがふつうである．

（丸山宗利　九州大学総合研究博物館）